

# 高林白牛口二の謡を聴く会

第一部

対談

表きよし

高林白牛口二

第二部

砧

高林白牛口二

土車

高林呻二

東岸居士

高林白牛口二  
柿原弘和

谷行

高林昌司

主催 高吟会

令和元年 11月29日(金) 午後6時始 十四世喜多六平太記念能楽堂(喜多能楽堂)

● 入場料(全席自由席) ¥4,000均一

※当日、砧の謡本を販売いたします。

● お問い合わせ

※チケットはお電話、メール、ホームページからご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail : koginkai@ares.eonet.ne.jp

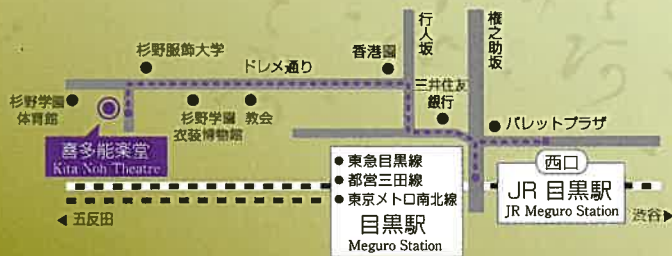
http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL : 075-462-1490 FAX : 075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL : 03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに  
目黒駅下車徒歩7分

# 第八十四回 喜多流涌泉能

令和元年十一月二十九日(金)

## 第八回 高林白牛口二の謡を聴く会

午後五時十五分開場

動静以天地  
視哉涌泉美

鈿之翁

第一部 午後六時始

対談

表 きよし

高林白牛口二

休憩(十五分)

第二部 午後七時始

一曲独吟 砧

高林白牛口二

仕舞 土車

高林 呻二

一調 東岸居士

柿原 弘和

仕舞 谷行

高林 昌司

附祝言

終了予定 午後八時四十分

主催 喜多流 高吟会

### 能は演劇か

高林白牛口二

私は学者ではありません。ましてや演劇評論家でもありません。八十年に亘り能の舞台上を、人生の生活の場として過ごしてきました。その体験から学んだことを軸にして、能の特質を論じようと思います。

一、能は演劇か

先ず第一に考えなければならぬことは、能は演劇か否かと云う事です。これは簡単に片付けるならば、結論としては能は演劇と云うべきです。但し、一般的な演劇論では解析できない演劇です。その理由を今回のテーマとします。一般的な演劇論で解析出来ない理由は「翁」の存在なのです。この曲の存在が基礎にあるための影響は、別稿に持ち越すことにします。

二、演劇の定義とは何か

では先ず、演劇の定義を考えましょう。単純に考えて演劇とは、筋と云える物語的な経過を辿って舞台が展開し、演技が進められるものと考えます。物語の形式は、それこそ無限に存在します。その分類だけで、大部な論文が形成されるでしょう。

三、その定義に能を当てはめると

能もこの定義から逸脱せず、見た目の上では舞台上に進行して行きます。そういう意味で、能も演劇であると云う事が出来るのです。

四、能が一般演劇論では解けない一番の特徴とは何か

一般的な演劇は、人間の持つ動物的な感情の表現を、如何にして具体的に表現するかと云う事が、簡単に考えられる一番の目的だと思います。では、能はどうでしょうか。能はこの動物的な感情の表現を、最大限に縮小し 否定的に感じるまでに限定しています。これは何故でしょうか。

五、足遣いは何を表現していますか

白足袋のみ履いて摺り足で、如何なる役も動めます。極く一部に例外的な曲もありますが、それを除くと、あとは山中も水中も雪中も全て、無条件に摺り足で押し通しています。

六、固定化された型は何を求めていますか

所作はこれも理解し難い制限だらけの表現です。人間の感情の表現の極みと言えぬ哀しみ泣くと云う時に、能では掌を顔に向け極く静に目の前へ近付けるだけです。稀に号泣に匹敵する時は、両手を併せて行うだけです。能以外で一般的に泣く時は、必ずと云ってもよいと思いますが、身を振る所作を伴うものです。能は特に身を振る或いは左右へ傾ける事での感情の表現は、禁物になっています。

七、能面を使用するのは何故でしょうか

能面は、世俗的には無表情を表現する時に「能面のような」と云う言葉遣いをするほど無表情な物体です。それを知った上で、敢えて能はそのことを最大限の特徴として取り入れているのです。ではその能面は、何を求めているのでしょうか。

八、これらの事が、能を理解する為の一番大事な事です。無表情な 能面に命を与えることが、私は能役者に求められた最大の課題と理解しています。

(未完です)

### 来春予告

令和二年 四月十一日(土) 午後一時始

第八十五回 涌泉能 於 京都 大江能楽堂

仕舞 賀 茂 高林 呻二

一曲独吟 定 家 高林白牛口二

能 春日龍神 高林 昌司

令和二年 六月十九日(金) 午後七時始

第八十六回 涌泉能 於 東京 喜多能楽堂

(第九回 高林白牛口二の謡を聴く会)

一曲独吟 老 松 高林白牛口二

仕舞 杜 若 高林 呻二

仕舞 船 橋 高林 昌司

他に対談と二調を予定